



# 飯田市 歴研ニュース

News Letter

No. 122

The Iida City Institute  
of Historical Research

2023年2月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iih@city.iida.nagano.jp



## 史料で読む 飯田・下伊那の歴史3 山里 南信濃のあゆみとくらし

飯田市歴史研究所では、これまでの史料調査の成果をもとに、2023年3月に『史料で読む 飯田・下伊那の歴史3 山里 南信濃のあゆみとくらし』を刊行予定です。

本書は、飯田市南信濃地区の近世から現代までの史料を取り上げ、その歴史を紹介します。本シリーズはこれまで、『松尾 大森本の家と周辺の社会』・『川路のあゆみ 近世から近代へ』と刊行してきており、その3冊目にあたります。歴史研究所では、創設初期から、南信濃の旧村時代の役場文書の調査整理・目録作成を継続的に行ってきました。それ以外にも、文部科学省の科学研究費助成事業による研究プロジェクトなどと共同しつつ、個人宅に所蔵される文書の調査や、学校史料などの調査に取り組んできました。本書では、それらの調査の中で見つ



近世の和田村の絵図

かった史料を1点ずつ取り上げ、その内容を読み解いていきます。この地域の近世から現代までの歴史について関心を持つきっかけになればと思います。

今回は、近世から現代まで、12本の文章が収録され、幅広いテーマを扱います。江戸時代の樽木や、明治時代の地図作成、戦後の茶栽培や学校教育、霜月祭りなどを取り上げます。本書を特徴づけるのは、外部とのつながりです。南信濃地区は近世から現在に至るまで、常に様々な形で外部と交流し変化してきました。決して孤立した山里ではない姿を、読み取っていただければ幸いです。



昭和の和田の町並み

### 〔内容〕

- |                                  |         |
|----------------------------------|---------|
| 1. 南信濃の白木口留番所                    | 吉田 ゆり子  |
| 2. 樽木と遠山六カ村                      | 前澤 健    |
| 3. 和田村・八重河内村の駄賃稼                 | 羽田 真也   |
| 4. 山里における地図調製 一明治期の和田村外四カ村       | 福村 任生   |
| 5. 和田村の赤痢流行と行政の混乱                | 太田 仙一   |
| 6. 日露戦争と遠山青年会                    | 竹村 雄次   |
| 7. 王子製紙の進出と山林労働                  | 太田 仙一   |
| 8. 町村長会の満洲視察と南信濃村の満洲移民           | 本島 和人   |
| 9. 飯島発電所建設と朝鮮人労働者                | 原 英章    |
| 10. 都市の文化に触れる 一小学校の修学旅行          | 多和田 真理子 |
| 11. 遠山の茶栽培と地域の変貌                 | 田中 雅孝   |
| 12. 遠山霜月祭りの変化と継承 一小道木・川合における祭日改正 | 近藤 大知   |



南信濃・柴原博人さんの茶畑

2023年3月 刊行

飯田市歴史研究所 編  
B5判 84頁 定価 1,300円



## 史料紹介

# 向山雅重氏撮影写真にみる下栗の景観

昨年12月に開催したワークショップ「山里社会における生業の多様化と個性の時代—近世・近代の下伊那地域—」では、休憩時間に宮田村出身の民俗学者、向山雅重氏が昭和33年12月に撮影した遠山地方下栗の写真を紹介しました。この貴重な写真史料は、宮田村教育委員会の所蔵で、史料形態としては、35mmフィルムの36枚撮りネガ一本分に相当します。このフィルムを収納する紙のホルダーには、向山氏自身が、写真一点ごとにその写真の被写体名称をメモしています。ここからそれぞれの写真で向山氏が記録したかった主題が明らかとなります。しかし、写真という記録媒体は、撮影者の表現意図を超えて、その場所に存在したさまざまな事物を無意識的に記録してしまうものです。



図1 向山雅重氏撮影の下栗の「民家」  
(宮田村教育委員会所蔵、昭和33年12月撮影)

本村の民宿「みやした」付近から眺めた聖岳の眺望など、撮影場所が容易に判断できるものもありますが、大半の写真は厳密な撮影場所を特定することが困難です。ここでGISと呼ばれる地理情報システムの技術が活躍します。長野県林業総合センターが公開する詳細な地形モデルデータを使って、上町から下栗のルートの中かで、山や谷の三次元地形がどのように見えるかCGでシミュレーションすることができます。

たとえば13コマ目「民家」と題した写真(図1)は、前後の写真から下栗本村の民家を写した一枚と分かりますが、どの家を写したものが特定することは困難です。しかし、背景の山や谷の形状に特徴があり、同じように見えるアングルをCGで探すと、図2に示す位置から撮影されたことが推定できます。ここから、旧公図などで確認できる地目と照らし合わせると、昭和30年代の耕地の状態や山肌の植生を具体的に知ることができます。このようにして向山氏が撮影した写真の被写体の背景が、下栗の歴史的景観に関する貴重な史料となり得るのです。

福村任生(歴史研究所研究員)

遠山地方は民俗学者にとって、研究資料の宝庫であり、向山氏の下栗訪問も12月上旬の霜月祭りに合わせたものでしょう。ただし、夜間に行われる霜月祭りの様子は、当時の撮影機材では記録することが難しかったためか、霜月祭りに関する写真は、和田の夜川瀬で撮られた一枚のみです。向山氏が被写体を選んだのは、むしろ昼間の風景でした。上町付近から中立を通り、下栗本村まで歩いた山道の道すがらに出会った人物や家屋が撮影されているようです。そのなかには、下栗

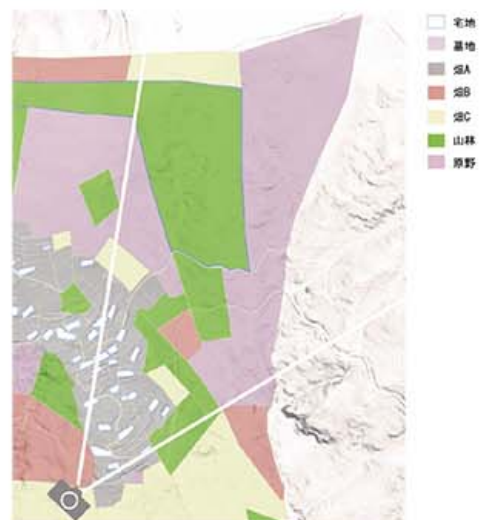
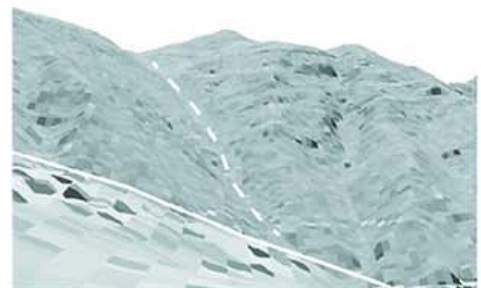


図2 GISを用いた撮影位置の推定  
(Esri社ArcSceneを使用)



## ワークショップ「山里社会における生業の多様化と個性の時代 —近世・近代の下伊那地域—」(2022年12月3日(土)於上郷公民館)を開催して

吉田 ゆり子 (東京外国語大学教授/歴史研究所顧問研究員)

16世紀末から17世紀初頭にかけて、城や城下町が整備される時代、徳川幕府は遠山の森林資源に目をつけ、伐りだした樽木や板材等を、天竜川を下して駿府や江戸へと運びました。全国的にみても重要な役割を果たした遠山ですが、地域に視座を据えた研究は、これまで十分に行われてきたとはいえません。外部から多くの労働者や飯米等物資が投入された伐木の実態はもとより、日常的な遠山地域の人々の暮らしや生業の実態も、明らかにされていないのが現状です。そこで、今回のワークショップでは、幕府の御林と百姓林を抱える遠山地域と清内路地域に焦点をあて、江戸時代の地域社会で営まれた日常的な生業と生活の実態を、近世から近代に視野を広げて研究した成果を報告していただきました。



ワークショップ会場

研究報告からは、学術的にたいへん意義深い成果を得ることができました。また、市民の方からも、地域の生業の歴史を認識する機会となったという反響をいただくことができました。感染対策で空気の循環を保ったため温まらない会場で、長時間、最後まで熱心に議論に参加していただいた皆さん、また遠方からオンラインで参加して下さった皆さんに、有意義な会にさせていただいたことを感謝しております。

自然との関わりの中で、長い時間をかけて営まれてきた生活や生業のあり方が、その地域の豊かな個性をつくり出してきました。地域の個性を大切にしながら、若い世代の方々や子供たちが、地域の将来を担って行っていただくことを祈念しています。今後も、引き続き遠山や清内路をはじめ、広く下伊那地域の森林資源の利用と地域の生業・生活との関わりを、地域社会に視座を据えて研究することを課題としてゆきたいと思います。

## 研究集会での研究報告と市民研究員候補等を募集します!

### 1. 第20回飯田市地域史研究集会での研究報告(自由論題報告)

◇開催日: 2023年9月9日(土)・10日(日) ※自由論題報告は10日に行う予定です

◇報告時間: 30分(報告後に10分の質疑応答時間を設けます)

◇報告タイトルと要旨(1600字程度)を郵送またはメールでお送りください

◇締め切り: 2023年3月31日(金)(必着)

審査を行い、4月末までに採否結果をお知らせします

◇応募先: 〒395-0803 飯田市鼎下山538 飯田市歴史研究所

E-mail iihrc@city.iida.nagano.jp

### 2. 市民研究員候補・歴史研究活動助成・飯田歴研賞2023候補作品

歴史研究所では、飯田・下伊那を対象とした地域史研究のさらなる発展を目指して、研究者の養成、研究活動への助成、優れた研究成果の表彰を行っています。2023年度も5月から市民研究員候補、歴史研究活動助成、飯田歴研賞候補作品を募集する予定です。詳細は次号に掲載しますので、奮ってご応募ください。



# 日本の町家と町並み —その地域性と普遍性—

講師 **大場 修さん** (立命館大学衣笠総合研究機構教授/京都府立大学名誉教授)

日時 **3月11日 土**

第1講 13:30~15:00  
京都型町家と在り型町家 —日本の中の京町家

第2講 15:20~16:50  
店棟造り・東日本の町家はどのようにできたのか?

会場 松尾公民館

資料代 500円 ※高校生以下無料

### 申込み

- ①会場での受講 (定員40名)
  - ②ご自宅等でのオンライン受講 のどちらかでご参加いただけます。
- 会場は3月9日(木)、オンラインは2月28日(火)までに電話、FAX、メールのいずれかで受講場所と電話番号をお知らせください。オンライン受講は、郵便番号とご住所もお知らせください。



講師より

この講義では、日本各地の歴史的町並みを彩る町家建築について、その成り立ちと発展の過程をたどります。最も長い歴史を誇る京町家の果たした役割と、地方から独自に成立した町家の特徴、特に江戸をはじめとして東日本独自の町家形式である店棟造りの形成過程など、多数の写真や図を用いて、わかりやすく解説します。

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。

## 定例研究会 ※聴講をご希望の方はお電話ください

### ▶日中戦争期の『胡桃澤盛日記』を読む

報告者 田中雅孝 (歴史研究所特任研究員)  
開催日 3月4日 土  
時間 14:00~16:00  
会場 歴史研究所 研修室

### ▶近世後期の大平街道と馬塚・駕籠塚

報告者 羽田真也 (歴史研究所研究員)  
開催日 3月18日 土  
時間 14:00~16:00  
会場 歴史研究所 研修室

受講生募集!

## 歴研ゼミ&ワークショップ 2月・3月の予定

会場:歴史研究所 研修室

### 建築史ゼミ

担当:福村任生(研究員)  
2月17日/3月17日  
(第3金曜日) 19:00~21:00

### 近世史ゼミ

担当:羽田真也(研究員)  
2月8日・22日/3月8日・22日  
(第2・第4水曜日) 18:30~20:30

### 近現代史ゼミ

担当:田中雅孝(特任研究員)  
2月25日/3月25日  
(第4土曜日) 10:00~11:40  
※今年度から月1回となります

### 思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場  
2月1日・15日/3月1日・15日  
(第1・第3水曜日) 19:00~21:00

### 満洲移民研究ゼミ

担当:本島和人(調査研究員)  
齊藤俊江(調査研究員)  
第133回 2月4日/第134回 3月4日  
(第1土曜日) 10:00~11:40

### 地域史ゼミ

担当:太田仙一(研究員)  
2月10日/3月10日  
(第2金曜日) 18:30~20:30

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱・咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、延期または中止、会場の変更、参加者の制限をする場合がありますのであらかじめご了承ください。開催日の1週間前に開催可否を判断します。

開所時間:午前9時~午後5時 休所日:日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日  
メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: [iihr@city.iida.nagano.jp](mailto:iihr@city.iida.nagano.jp) まで